

いわみざわ市の教育

特集

市立図書館より臨時休館のお知らせ

主な内容

学校給食費を改定しました

安心して通える学校をつくる

～岩見沢市ピア・サポートプログラムの紹介～

体験してみよう！いわみざわチャレンジスクール

教育長コラム「腐ったミカンの方式」



【写真の紹介】

5月17日(土)に北海道教育大岩見沢校の体育館にて「楽しいキッズスポーツ教室」を開催しました。第1回目は運動会シーズンということで、陸上(走り方)を行い、総勢102名の子ども達が遊びを取り入れたメニューでたくさんの汗を流しました。

岩見沢市教育委員会 Facebook

市内の教育に関する行事の情報を発信していますので、ぜひ「いいね！」してください！

<https://www.facebook.com/edu.iwamizawa>



館内照明LED改修工事のため

図書館を**臨時休館**いたします

皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

【休館期間】

令和7年8月25日(月)～令和8年1月5日(月)(予定)

【工事内容】

館内の照明をLED照明に改修します。書架や設備を保護しながら、吹き抜け天井部分における高所作業を含めた工事を館内全体で行います。そのため、館内への立入りや図書の取出し(貸出)ができなくなります。



臨時窓口について

教育研究所に、臨時窓口を

令和7年9月2日(火)より開設します。

〔 緑が丘2丁目34番地1
北海道教育大学岩見沢校敷地内 〕



【利用時間】

火曜日～日曜日／10:00～17:00

【休館日】

月曜日・祝日、月末の平日(月曜日を除く)

【サービス内容】

- ◆予約本の受け取り
※本館の本は貸出できません
- ◆返却・貸出延長
- ◆予約・リクエスト
- ◆教育研究所玄関に返却ポストを設置予定

【問合せ先】図書館図書係 ☎ 0126-22-4236

休館中は・・・

【雑誌について】

本館取扱の雑誌(最新号)は、来夢21図書館でお読みいただけます。

【イベント】

シアター、火曜落語、絵本の読み聞かせはお休みします。

また、図書館フェスティバルは中止します。

通常どおり開館しております

【分館】

- ◆来夢21図書館
- ◆北村学習交流館
- ◆第一小学校図書館

ほか、市内各サービス拠点においても、通常どおり予約受取・返却が可能です。



令和7年7月1日から

学校給食費を改定しました

岩見沢市は、平成26年度に現在の給食費に改定以降、食材価格上昇の中、食材選定、献立の工夫などのやりくりや市からの補填により、給食費を据え置きして提供してきました。

しかし、今後も食材などの価格上昇が見込まれる中で、学校給食に求められる栄養量を満たす献立を作ることが難しくなっていることから、令和7年7月1日より学校給食費を改定することといたしました。今後も子どもたちへ安心安全で栄養バランスの取れた学校給食の提供に努めますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

給食費改定の内容

■小学校及び義務教育学校（前期課程）

区 分	現 行	改定後	引き上げ額	令和7年度の保護者負担
1食単価	237円	310円	73円	237円
年額	45,030円	58,900円	13,870円	45,030円

■中学校及び義務教育学校（後期課程）

区 分	現 行	改定後	引き上げ額	令和7年度の保護者負担
1食単価	284円	372円	88円	284円
年額	53,960円	70,680円	16,720円	53,960円

／ 今回の改定のポイント！ ／

- 今年度の給食費（保護者負担額）は改定前の金額に据え置きます
- 令和8年度については、国の給食無償化など動向を見ながら保護者負担分を検討します

／ こちらからもチェック！ ／

市のホームページからも給食費に関するお知らせを確認できます。



給食費改定までの経過

日 付	内 容	備 考
令和7年2月27日	諮 問	○「給食代金の改定について」（学校給食運営委員会） ・ 当市の給食の現状、物価高騰による影響、他都市の状況等の説明
令和7年5月13日	答 申	○答申（給食費改定、8項目の附帯意見） ・ 運営委員会（3回）による審議
令和7年5月29日	市議会説明	○所管事務調査（総務常任委員会） ・ 経過、答申内容等について説明
令和7年6月26日	給食費改定	○教育委員会に提案 ・ 決定後、保護者・学校関係者等に周知

【主な附帯意見】

- ・ 保護者負担軽減策の検討、国の支援策の積極的な活用
- ・ 適宜、給食費見直しの要否検討
- ・ 国の給食無償化に関する動向注視
- ・ 地産地消の推進、積極的な情報発信



安心して通える学校をつくる

～岩見沢市ピア・サポートプログラムの紹介～

ピア・サポートとは、子どもたちが相互に支え合う活動を意味します。岩見沢市の小学校、中学校及び義務教育学校では、この活動を年間指導計画に位置付けて実施し、例えば、小学校中学年で「トラブルの回避」、中学校で「温かい言葉かけ」について、対話や体験等を通じて学んでおります。この他にも、各校が自校の実態に応じて様々なプログラムを開発し実践しております。



岩見沢市教育委員会では、このようなプログラムを義務教育の教育課程に位置付けることで、子どもたちにとって学校・学級が安心して学べる場所につなげたいと考え、平成29年度から教育行政方針にお示ししてまいりました。



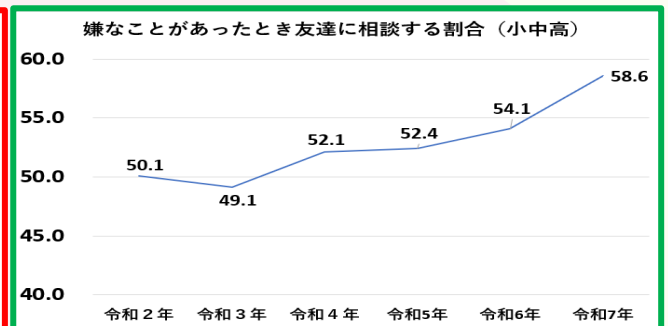
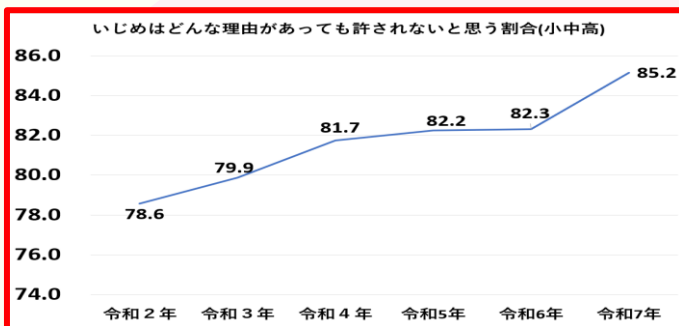
▲学校での取り組みの様子

取組の推進にあたって、令和6年度から各校が主体的に取り組む体制構築に向け、広島大学の名誉教授であります 栗原 慎二氏を招聘し、市内教職員を対象に年10日間(60時間)の研修を3年間にわたって行うこととしました。また、令和7年度からは岩見沢市立教育研究所の研究事業として「岩見沢型ピア・サポート特別部会」を新たに設置し、ピア・サポートを含む包括的生徒指導の理論に基づいて調査・研究・発信を始めたところです。



▲栗原氏による研修会の様子

これまでの取組の成果として、各校で実施している「学校生活アンケート」において、いじめはどんな理由があっても許されないと思う割合や、嫌なことがあったときに友達や先生に相談すると回答した子どもたちの割合も年々増加傾向になっております。これらのことから、ピア・サポートの取組が、子どもたちにとって学校・学級が安全・安心な居場所となると考えております。



岩見沢市教育委員会では、ピア・サポートの取組の一層の推進を図るとともに、今後は子どもたちの非認知能力(数値では表せない個人の内面的な能力)を高める取組も加え、「子どもが煌々岩見沢の教育づくり」を推進してまいります。

【問合せ先】指導室 ☎ 0126-35-5127

体験してみよう！ いわみざわチャレンジスクール

「いわみざわチャレンジスクール」は、地域の子どもたちが多様な体験を通じて学びを深め、自身の可能性を広げることを目的としたユニークな取り組みです。岩見沢市生涯学習センター「いわなび」や郷土科学館を拠点に、年間を通して様々なジャンルの講座が企画・実施しています。

このスクールの最大の特徴は、知識の習得に加えて「体験」を重視している点にあります。プログラミングでドローンを飛ばすような先端技術に触れる機会や、親子で参加できる工作体験、さらにはアウトドアでの自然学習や伝統文化に触れる講座まで、その内容は多岐にわたるもので、子どもたちは普段の学校生活ではなかなか出会えない分野に興味を持ち、新たな「好き」や「できる」を発見するきっかけを得ることができます。



クライミング体験



プログラミング体験

また、「いわみざわチャレンジスクール」は、地域社会全体で子どもたちの学びを支える仕組みとしても機能しています。講座の講師には、それぞれの分野で専門性を持つ地域住民や団体が多数参加しており、子どもたちは多様な大人たちとの交流を通じて、社会性を育む機会も得られます。これは、初めて講師に挑戦する方にとっては経験の場となり、すでに活動している方にとっては自身の活動をPRする場となるなど、地域コミュニティの活性化にも寄与しています。

このような地域の特性も生かしながら、「いわみざわチャレンジスクール」は、子どもたちが未来を生き抜くために必要な創造性や探求心を育む場を提供しています。

体験を通じた課題発見や、解決策を探る過程は、これからの社会で求められる「生きる力」を養う上で不可欠と言えるでしょう。

「いわみざわチャレンジスクール」は、子どもたち一人ひとりの好奇心を刺激し、岩見沢という地域全体でその成長を応援する、地域密着型の生涯学習推進事業となっています。



ペットボトル・ロケットづくり



親子でポンポン蒸気船づくり



雪遊び体験



万華鏡づくり

「腐ったミカンの方程式」

教育長 吉永 洋

「我々は機械やミカンを作ってるんじゃないんです、人間を作っているんです！」

昭和の懐かしい学園ドラマ、『3年B組 金八先生』で坂本金八先生が語った有名なセリフです。

このシーンは、金八先生が勤務する桜中学校に手に負えない不良生徒が転校してきたことから始まります。

問題を繰り返す転校生に困り果てた桜中学校は、少年院に行くか他の学校へ転向するかの選択を迫り、学校から放り出そうとするのです。

そこで、金八先生が職員会議で涙ながらに言うのが冒頭のセリフになります。

《腐ったミカンが箱の中に一つあると、他のミカンまで腐ってしまう。だから、他のミカンを救うためには、腐ったミカンは早めに取り除かなくてははいけない》

これがいわゆる
「腐ったミカンの方程式」です。

昭和55年頃から、ボンタン、短ランで登校し、自転車を廊下で乗り回すといった生徒の行動が全国的に問題となりました。

『3年B組 金八先生』のドラマには、この“荒れた学校”が時代背景にあります。

昭和から平成、そして令和に移り変わり、時代は多様化を迎えています。

今や、異質なものを排除するといった『腐ったミカンの方程式』を唱える人はいなくなりました。

しかし、それに似たニュアンスを感じることもあるのです。

集団に馴染めない子、突然教室から飛び出してしまう子、自分の好きなことしかしない子、或いは褒めてもそれを拒否する子。

近年、そんな子たちが増えてきました。

すると、先生たちはジレンマに陥ります。

一人の子の勝手な行動を許してしまうと、集団の秩序が乱れてしまうのではないかと。

それを後押しするかのように、『割れ窓理論』なるものが一部の教育評論家から再び囁かれるようになっていきます。

一枚の割れた窓ガラスを放置しておく、やがて他の窓も壊され、荒廃していくといった考え方です。

犯罪が多発したニューヨーク市では、この理論をもとに軽微な違反を取り締まった結果、犯罪が激減しました。

文科省も一時期、いじめや小学校の暴力行為が増加したため「ゼロトレランス方式（学校規律の違反行為に対するペナルティーの適用）」を指示したことがあります。

「割れ窓理論」は生活環境を健全にするためには、重要な視点ではあります。

ですが、それをニューヨーク市の犯罪率が低下したからといって、学校現場に当てはめるのは適切だとは思いません。

何故なら、教育の本質は規制や抑制にあるのではなく、子ども自身が持つ自己指導能力の育成に他ならないからです。

きっと、金八先生だったらこう言うでしょう。

「我々は窓ガラスを作ってるんじゃないんです、人間を作っているんです！」と。